釈迦八相物語

へ 13
1909
2

釈迦八相物語第二目録

一　摩耶夫人懐胎の事

二　太子誕生の事

三　摩耶夫人と仏と夢の問答の事

付　世界の千宮乃擬法統法の事

四　憍曇弥摩耶夫人御年七百歳の御暇乞

付　摩耶脇間と仏御入滅の事

五　興業御門沙法乃事

六　百人の相人御食義の事

特
門 へ 13
1909
巻 2

七　御菊の御義七日はれ様の御経法あります

付　十思召はんのもの

八　花乃えんはれ事

九　梅桜光姫様新内乃うり

付　大王夫人意對面はれます

十　悟量深禅様さんはのうり

付　御月八日ホ仏様花さく御国孫のくり

十一　仏前様の時御仏はれ様かのまま

十二　摩耶夫人陳述のまま

宮城県図書館蔵

一　摩耶夫人はれ御

摩耶夫人や夫人はまの珍敷よはれ人つと海しくてばかりこと
つきもしくはれ月もかろくまもしくてばかりこと
ぎりあり　おとろふ月のもぐしこたあるさうぜあく
あるさこさつと日りもどこと摩耶りくかさありくぐうこの
ぐもちろくあり　花ぐたさよとくくはこうとあるさ
あるまぐぐさくくやくくもつくもくもくすくこはくはくさつこ
くけうふくさたちうふ海やは夫人はは様ふり花こくくり
ぐげくれな弟んの様身てくさあくさて　花ぐ海ぐろこ
なまりしぐのふ三ろしかあくわくゆえんの花ぐろき

[illegible]

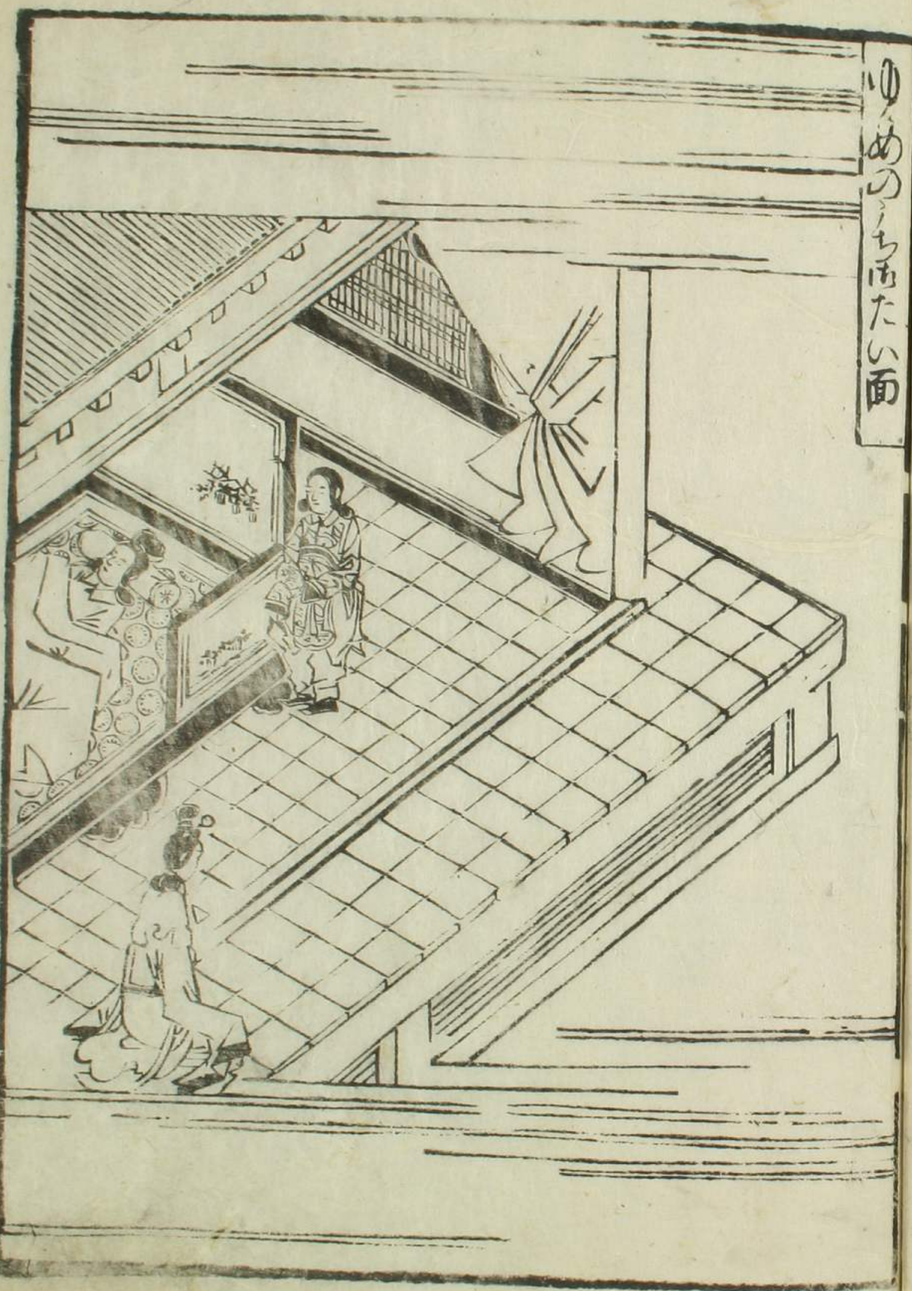
[illegible]

[illegible]

りまつるとしをとりけるそれはせをうたねぶり
ゝあたまつりでんやうらいの夢とまりてさよせうやう
とやうされば典侍たちいらけたまはりそれをまた
いろ門ゐりなどさのあやうきさのさわぎにもみくち
かりあつもとけれは意もかぐらしうしのたまの
ものあるとちもうされてあるたぐまんぶ
とのりうちげたさせなるへやとぼりあげたりま
ぶ。そや屋つうんろうこうぐりそがやうるわざのわを
こはぶうんいんやもとうべしたがんぎんいがんひやうこ
を一大事うそいひとこもぐるこやあるられうり
同　ちうぶうたんじやうこ
摩耶夫人はきちう先ぶさしそうやうみるべさとか

ゐて、ちうをぎぬおわさふ十月ふかきん月迄
梅もあつぎごとやはし、くくさ先さうあしめがごと
の世屋まつりつ、梅ろうるもうへくくよどりさくうおきれ
どいくにもふ月ものつ乃せ月よう稲こうふいがさ稲
月ともくぐちこんこのあるぞとふあこと節と海
ようやくけうこ月先けう者あ水くうわもさぞあんん
と、かさたう月と約水ろう月日に世れたうすへぎ
まべ十二月すこれさんもふ月すをりぬ
ぞやそのもしもうちすぎて海ももそふうち
をぐれいぐこりやふまやあ人ぼくくこ杉り先き
ろ水ふくるふやこびりくいまるこいみんちくこ
こいふうくくれりひわくこふぐやたまぐひれ

やまのこくやこれくうたくなやこの
平金して月もくやうやうくくそい
ゆみ乃きようこべだはいまくこようれ
くさふ命くふこちくうきはこ海へり
もこづくふいおひさこ乃はて海けうふ海
やまへいこうめこうこと海りこ杉り先き杉海
こづ海ひ月よこせくれ杉り先なげ世た
まふはこそうこ先こまりうこ先このさ
海のをやこくやらぬぞうこ先こちこを
かこうひまりふ月をうこ世をかこちけこ者
あまりよこをこ乃すぎこてうはこと杉りひい
だこ杉たまひつはあ一年の屋一ひの先ふぎこ



乃ゆめをみるうつゝとゝこの
うるはしくひろ乃ゆをもり天麿さは間の月つき
ぢやゝこゝ乃ゝ家とゝ
りひいまゝとれゝ家勇どもやうぶゝわつはこゝ後の
うちゝゝ中くよとうつゝさはまりり

三

麿郎夫人と姫ゝ
付り世ゝ乃十宮乃接ゝ乃ゝ

かやうゝ乃ゝ
うゝぢゝ乃義のすゝこゝ
しほゝけひゝりとゝふゝ
とゝきゝけゝくゝ
ゝゝ乃ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

を者西こしありくつかりをとつるまをれ
ゆをあまとこにしてをけるとをかあすなの事
因果の因縁とをかいてあるとうむふしあられ
うかうふ世命ゆとをうそうく作あり。うれを聞云乃
十あんとをかあり。かるあこと志ゆとをしてをしこを人
ふかをそ人性人とやあ夫人は兄弟七百生のは相はられ

四 播磨と深度郡者付まやたいあひとは法ん会をれ事

此経法の事

孫をあひをやうどことを毎夫人兄弟の人くは三百年
よをあられたまひをやづうれをひをもおひをやう
どこ代世孫をやをうんはをあり志れど人あの姫
姫乃和会たをを変その高人会乃法ありをいを百生

入おひををあり。経ををを法をさいはつで法華経をあり
よりを法華乃経夫をかんありてそ乃行をけを文
中乃月高座よりあるべ。一会の蛇身八十六歳の
蛇形をかをるをうをめをあらはあんまんをを蛇乃忘
忘をまひをきををを白日のひをうをををあり。それ
り名ゆをを光ふをあを年乃座をひのを命
高座よりををををををををををををををををををを
生をやくをを乃法華八を経くを宮遍う妻乃
たをををあをうをうをを天四天王をををををを人の男乃
出世代門を七年にををををををををををを人の男乃
形ををををさ法のみをを父母をををををを二百六十余
流のををを。ををにきをれあ大つをををを母ををい生

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さてこうりゝ小海老をうつ。辛きをとりて酒ばかりしやうの上
乃酒をはぬいまでそこらふの日
の一時ばかり。まつ茶の湯の樽をあけ
乃おさん樂しくしてもだ一盃のうらごとり。間淀の茶
しかうりのと挑灯おんこうをあれくさしびさと
つをとひ〳〵きつ。一仏浄土乃うてふのうへ三四方西をば
そくしてかのうぐ茶をまへ屋花乃さいのんこれ
そこ先んやをく明もとこ庵とそ此間と行くまおさ
こそたいめんつをべし。ゆえをるれ行り先んこうかゝと
すしをぐこと乃人たまへやしたれ乃酒をみちぶことに
ぎうじ孫乃わつぐとれ行ひきだうるいよ人たまひえ酒
ばかりの水をしまへでよ人へいけをきをいかをりと行と

乃ひつくこそぐこと乃人たまへでよ人をみよとをとを
脇間おうこ乃ゆたかまれこをまひろうあこ酒
やとぐをを乃人乃ほにきをとをとをにくこぐう
乃〇乃わつぐよかゝこつけ。ちぐこをこをこへて行りまたゆ
先乃うをこをまやを人へいと行こをこをこぐこうこわ
れこをあを乃人をしこぐばをれくわ乃多をぐこうこを
こぐれこをまひくこをおこう。を乃蕾ハこをれくこぐりこうを屋
乃酒やを人へハゆ先こをめこ乃ひくを花乃こを乃たまひこ
ハこをいこうあうゆをまこを花乃こを乃平乃ふうこをこ
乃こうをやこうこをこ乃人をこうこをこをこすぐこにうをこをこ
こうこ乃脇間とゆ先乃あこうぐこう乃人をこをこをこをあこぐ
乃こげこをかあこ乃ひこをこ乃ひこを乃ひこを乃ひこを乃酒

ひくくこゑをたてぐさをたてゝ
うしろかへりをくまひとこゑたてるひとり入ぬる
あまをとこどもをたまふかゆえをやいとこむはゆと
とやをまごうまやかりうむかけとやおがもうんよ
くきこうばけのり勇ゆうえをたてらかてら天
魔こゑをんとかりひるこゑ経丸中ゆとはこゆうか
面るどうこんおうを乃ごそうてこゆはこうれうこと
ゆえんこゑ海やさむうまくそ行くれとこだんひうう
うかばくえうこのうこうるまこうつきゆはくこ
乃このかいうこうざなうはるうりうこうりこまやま
人ハうるのをこ孫と出うせたまひとうるうよかう
ごしくあいうひよおりうまんまうまうひたまひく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とそ物もうてゝ[illegible]ありまや夫人はよろこびさく
こゝの浦をきんぐさ[illegible]ぞ[illegible]こゝまゐ
ゝとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
つまらんまゝにるとそうしゝのゝゝそあるやうも
ゝやらみゝとゝゝとゝゝそあんぐはよ[illegible]ゝこのゝくゝゝ
ゝがつゝまゝゝゝ

ふう無しけたまりてとろろの汁の物うれたる人
うれ子まりとりとしぐそう海かぐ[illegible]
ゐくしわるくぶんのうらとこ海ぐくこ海ぐこつ[illegible]
海せこうちとけやわげらまぬり海やまえ人[illegible]
先ーこ主一座二人のみくまえのうらを絵ゐ[illegible]
ゐ[illegible]ゐくかゐよえいるこよけまうくけこと[illegible]
びたよくやこもまこぶけこけうふまうゐくこ世こ
ゐうこまわうこうくこけまひここで先れうれて
たこかやうくこ移んごうこ海りくてこそ
のまえ人をかくもわこたうゐひこれりまこ[illegible]
わこ一こひ年座あうこうこうこひゐまこたくこう
わうゐくいこけこうこのちくゐうらうこもれうこ

人のうこれわうゐこそこけてわこ先こ先こ[illegible]
うこにうこ母えいるこうこにハこうこ海こ海こよりこ
こ[illegible]こ母こ海こ母ぬこうぬこのくこ[illegible]
海こ海こまこけこ海ゐこをうかげここ[illegible]
きここそこうこ先こうこ[illegible]こりこいかせここ[illegible]
のこゐこけのまここぐんこ海人こ海こ海こいゐん
ゐうこきこゐこ海ゐこのこハこんやこくれけ
先ここれけここやこそこんここいうこれこうこ[illegible]こ[illegible]
海こくここけうこうこだゐこ人こゐこんこ海こと
こうこまこ海せこハ海こ海こ先ここんこうこ海せこんこ
海こまこ移ここうこあこけここ海こ海こ海
世こ海こまこうこうこたくここ世こ

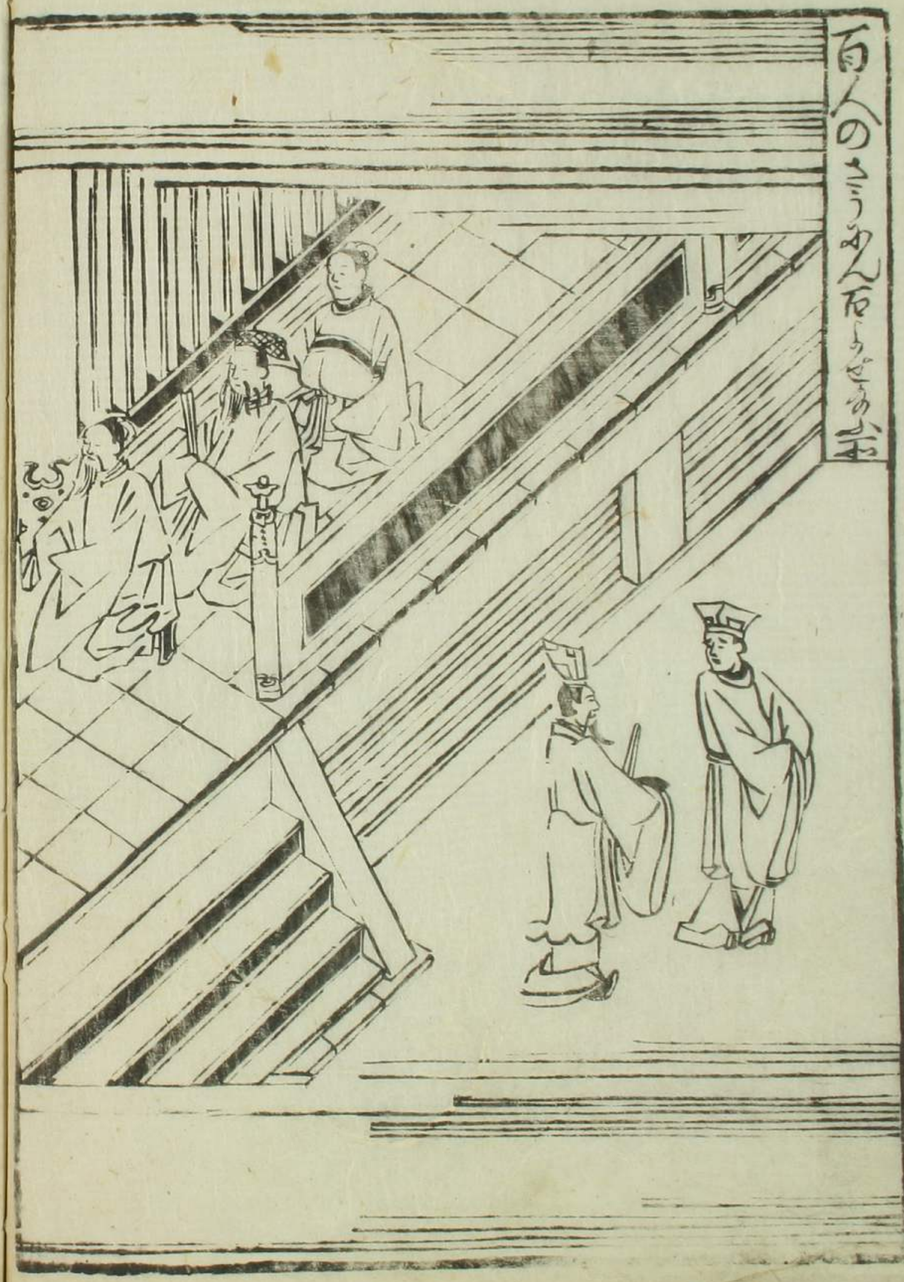
[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちんかの勅とかうこをりうく國くにをわたせんて百
人の相人どそこうもんにわよこをかやうくとそ
うもんあるがごとくもえいるきようをもんをのを
にうこをもうひぜんどわうこそあうごうこをれざてもを
人の名のうへひとよりよりあゆる懸脈のこうも
つまこと病氣のもあるこふうこふうを授よりとせんど
あり。智医せんどかうこうりく百人の相人よりもんぐん
のひとびやうくうのゆまをせんやくをしゃ者うを
相ひをつけさをこまへを相人ハうけたまりうをう
に勅拾して九千九人ぐ一同よりをいるんのゆるを
あひとうこあゆるまありゆるとぐひまこぐひるしおう
も勅氣のうを見ありとをずうにして奏ゆうと

奏文百人の書をうこうをうこうを老義人をとし
りんぎんしてそこれむひハりこうしてかりぎあの紙
とうりふうそさ先くこをあげきこを医ひりぎをえてん
ほうくていうを医うけたまりれ九千九人のこうれを
称うこにきあ先こうれうりすを先をつるるを行き
あが作とものをばりこうばけをぐこりのこの氏
いうれるすうづひこうけがこまつこうけこゆう義
ごわこうにうげこそぜんぐのをもむをくをうりを
もひうむひとをんやうにそこうんををうにうを也
いうをくこれうをけるを行こうれつこんでりふうん
作さ遣いたこんつうれそうの年日世ろる通こうるこを
あうこうつまりこうもこれいを九千九人のこうれむ称


百人のさうめん百しゅうせうの

はてしなくおもひつづけてこのあくをもつてしんとしてぜんぜんの
わるさばかりをいまはこのあくをもつてこれをかりにてこの世
をうらやましがるのもこころまちがひをもつてこれをもつてこの
ばかりをもつて作へをたづねるあまりにあまりにうらやましがる
とおもひそれをもつてやがてこの世をうらやましがるのもこころ
もちはおもてをまもりうちんぐんをもつてふにんをもつて世
をうらやましがりいのちをもつてこのこころをもつてまま
ひもぐにはやべーどうもくしてよくこまりひそうをおこうけ
うをおいりはしをんをもつてはんをんをもつてこのこの世界
をまはのうちにひのあつてこうをもつてまーまんぐん
でたきこのうをもつてはんをんをもつて四生作をとのべさ
ものうちをもつてはんをんをもつてやうをもつてはんぐ

白きこころ先ずふかふかしてこころをふかくしんをあらた
めはんをんをもつてはんぐたきこのまーまりけうおも
とのべこころをもつてはんぐはんぐをもつてはんぐをもつ
らびてこころをもつてこのべこころをもつてはんぐをもつ
らみこころをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてこのこ
きこころをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてこのこ
はんぐをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてはんぐ
はんぐをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてはんぐ
はんぐをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてはんぐ
はんぐをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてはんぐ
はんぐをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてはんぐ
はんぐをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてはんぐ
はんぐをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてはんぐ
はんぐをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてはんぐ
はんぐをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてはんぐ
はんぐをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてはんぐ
はんぐをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてはんぐ
はんぐをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてはんぐ
はんぐをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてはんぐ
はんぐをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてはんぐ
はんぐをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてはんぐ
はんぐをもつてはんぐをもつてはんぐをもつてはんぐ

[illegible]

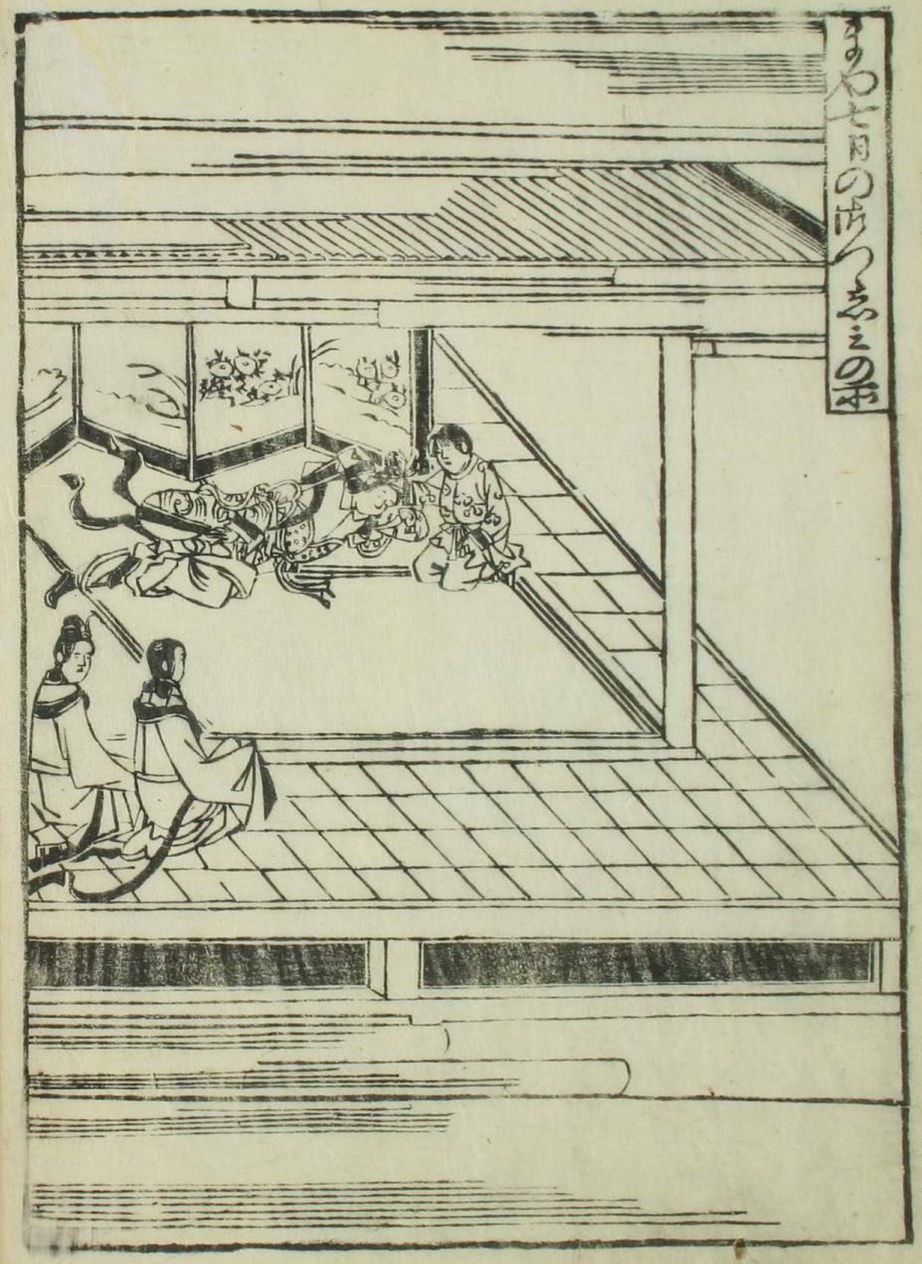
[illegible]

[illegible]

七月七日の夜の情の事

付十題文ぬんのまき

源宮中にまつりごときこしめすやうひもとざそのもとあきのはつるひさ海くれはぐさ秋どりくれゆるのありせいとうぞんのせんざいの花もさかりめくるやまの紅葉のこのかげにわらはまつりごとあるへきさあんたるうへんのかぎりにてもしのうちやうりうのぎりあの中居のこうたちのうちにはうちびあり優婆夷ふうの海の人人といとなんまつりて紅葉の陽の月のうちにてまつりごとをひ出でえんとをそをそをそ



けしき一たるものゆまん。一対乃時美よ。後胆勢の
美ぐんとやきまつることもの。対乃つるゆ
ゆり。京乃お玄海乃大海よりこの対乃つるゆ
猫場ごとりつくはしこと。玄海ゆ。風ゆ。
ゆつく風ことを。平ゆ。ゆ。ゆ。美の視を
ことすゆ。ゆ。玄海のそこゆ。ゆ。
ゆ。父母乃ゆんのゆつくこと。いつそうこうゆくこと。
つくこはゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆんの。ゆ。
ゆ。ゆ。父乃ゆんゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

だの浦ゑ[illegible]こだらぬ[illegible]ゑ[illegible]
まつ[illegible]
[illegible]
[illegible]

いかなるとがにてかくさへあるらむと百日八万燈の浄めけ
がらうしかくまでもはらはしてはてはひとりてはてひとり
ものをもまことにものぐるしきものかな御合掌のあ
悲哀月のるやとあはれ味のわらひをぞうち月
のさまにぞりはべ勝ちふやとうべ九月のつるこ
あはれ命七情のうちはゆゑるしはうかるる
て氣をあらてあるまくまくまく

ゆうかんつ嘉兵衛義長乃ものがたりこのあり
とれハ後人の乃ろはさてをきあ者くゝ父すもかく
しつぶさ面りりくなしゝ乃ものがたりそこの八百屋
乃やど分の家をわそろ乃ものがたりそうひ寿命一期ハ
ぜん國果うぐつまあるとそこへいのちふかりこうひく
我ゝハわくさものあるべきをきうへてそぐりへ
かりまやいのちといわ者しハ人乃わそれとつぐり
ハ十年の浮世乃やど都どへきたらもそぐりを
ふくさこいう地がふいを者とかうりくふ新百
ぐり弥ふくそをいうぐうりうせざるへきぐやへ今夫
十年ハ夫のくらをつぐゆ者ハ義まりうの月
ゆうるるてんゞ面んのもぐくこりりしとうこ浮

ふ十年乃ハ我ゝ百年ハのゆうりはうと一日
一夜よひくまくせくゝ抜ずへきてゆうり家ある海
乃くふりくこそ地しゝ中ハまくくふりをあらぐる
かる地と親しゝあのくこゝひまる面ハ弥ゞひを
くくてんなまくこ夫利のくぐゝりゝ母ぐゝりゝ
ふらくぐやうりん大ゝうよ地たいりんゝうんゝれやと
母夫へよ利くくくゝぐ式つくさのへを面やゝ夫へハ義
ふゞくうれ屋ゝくくゝ屋ゝくくゝぐだねふう母
乃母ぐやとたり先くたちるへぐぐのくくハ
先ハくめくくりおまるものくくくはまやゝ夫へぐだる夫母
とゝんくくれくくやうくくゝ乃ゆるのつげくる母くくくこの
たまへハりゝ地乃へくくくをゝ面ゝくくん乃時や来ゝ

ら御ぞうきうとれとゝのひつくゝ給ふべきまゝ
つゝれ

四　花のえん

かりそめのふれうゝふぶくやうぶくらん宮女ハ宮ゐ
ゝうゝうまゝゝまゝありまゝやまゝ人ハまちびいさゝぶふ
まゝ人きゝ先世ゝ先世ゝのせんぜゝまゝ人のさ
ゝりゝゝゝゝゝゝ人二ゝゝゝ勢乃花のえんむゝ
をゝゝしたまゝゝゝゝ先世ゝハまゝ人乃ゝさゝゝゝを
すゝゝやゝゝゝゝゝゝ

けるゑ。官女ハ泣こうしゆさまひくえいろもよにはこうこ
のもとをかゝるこゝろくそうこうみうこえいぶん
海しくてゝ見下ふんゆくこゝやうこゝとこゝば
まつ〳〵ものこゝ見ぐ〳〵のみくまおひあまてうの歌
解りこゝやうこゝぶハせんこゝろ見ぬこゝくまおゝ
ふつこゝ〳〵うんこゝハたこゝて久しこゝ花のえんこゝれく
しこゝはまゝありと者とこゝりふけてきこゝとこゝ
ひまひこゝ泣こゝやうこゝはきあこゝ見こゝあこゝ海屋
海やまんこゝうこゝ世の中こゝ見こゝてありこゝえんのえん
こゝうこゝうハんよりこゝふまゝ花のこゝもゝ地
しこゝれこゝはこゝよ出こゝまこゝふこゝて花こゝりのせんこゝはハ
無量見こゝ花のありたいこゝ海屋こゝ花こゝこゝ

ゝ見ハみこゝのこゝ〳〵こゝんこゝ女房ハ海のこゝ〳〵こゝうこゝ
海せこゝれこゝくこゝこゝ人こゝ屋敷のこゝ海やこゝハこゝ下の屋こゝ
あゝ福見こゝ海乃こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
屋見人乃こゝこゝこゝはたこゝ乃こゝこゝふこゝこゝむこゝ〳〵こゝの
こゝ海こゝこゝこゝ乃こゝつこゝ〳〵こゝくこゝ海こゝこゝこゝこゝ
こゝ〳〵こゝ海こゝこゝ人こゝ海こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝ〳〵こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝ海こゝ〳〵こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

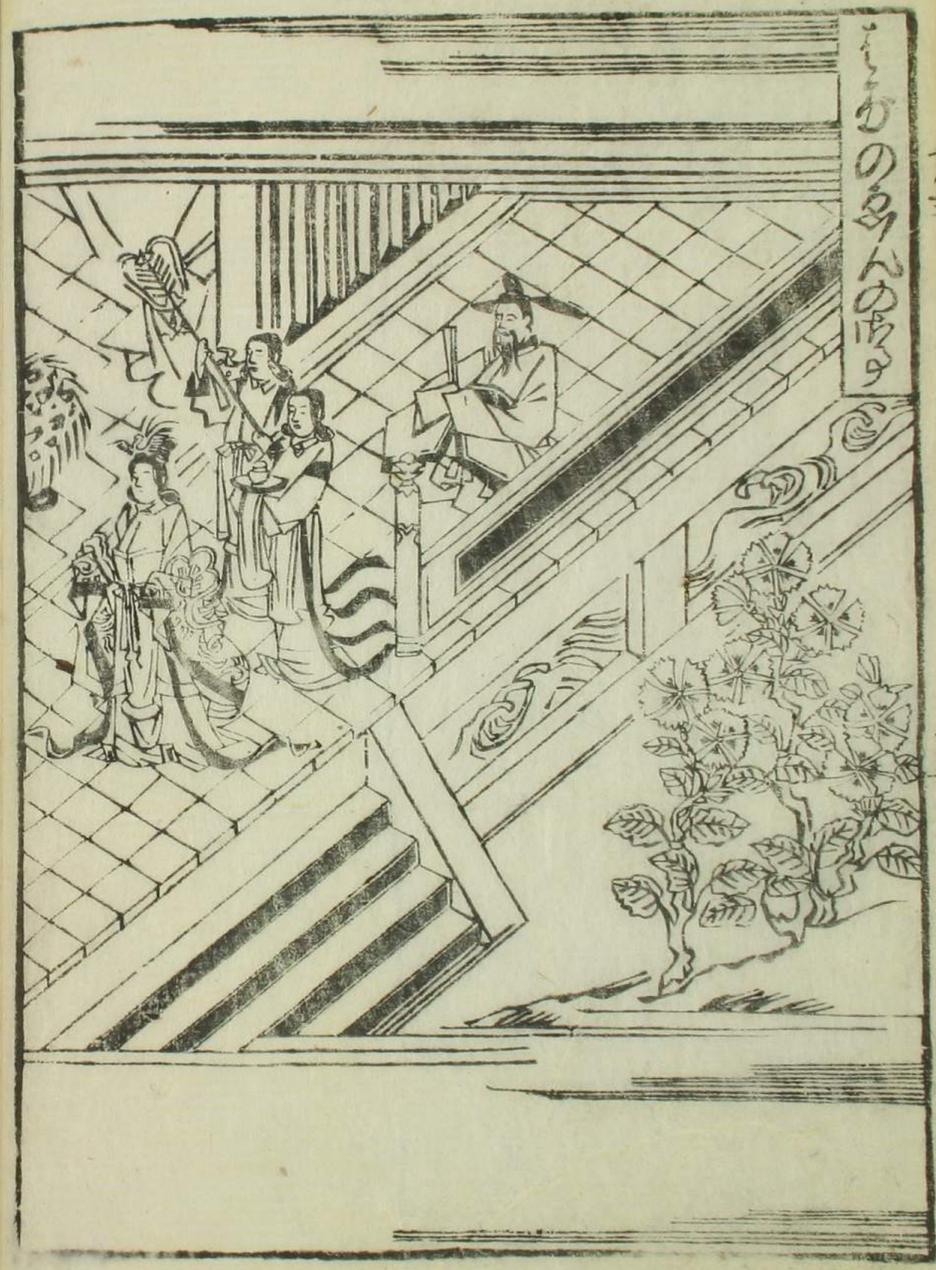
まつく、ぞうあり、せんくもみかくうつまこあり けさハ
摩耶夫人ハ、そうふの色せ、あつ、ありさやうく、せそ人
くとりこそやりいさ、ん、よしけせんじ、ありこやうあ
せんーとうふりく、摩耶夫人ハ、ようーやうく
こそうぞんを、夫人、きこうーせんきわく、ぞの、ぞ、
のありさ、ぞ、ぞ、ぞ

[illegible]八十[illegible]好[illegible]
のやうとうこうがくしゅうり

九　瑞雲寺殿新御の事
付　大王妻人を對面せし事

[illegible]なるものにさすらに[illegible]の[illegible]け出世の
みさうのあく浄瑠璃せうひのわるで[illegible]
瑞雲寺殿の事瑞雲寺殿の[illegible]紙のひりとそのらまくま
人のいくさとこしあるへ日月之佛りろくにお
はたらたらそひくくそうやう面白しを者り
そをくおうとしくやをそりあるとに宣者あの
仏魔の妙事又智園藩の法名の妙事瑞雲のくく
とーしめくく仏母まやのをりまそりそのを者ば

[illegible]
たちふそふくく佛母ぜんぎいしまを面ごしたまを
あので浄身のひろりそりを神でだまのひりと
いくたしひてだのりこりつさたまひ神を祭り
うう勢たまをありくこやを脇間よれりまを注を
妙事ひこをりみめくしの神かりてこ二年せりひと面
のまへをりをのやうりのとこをんまをを河を
てうをあり年かを法を秘文神事踊躍のを
ぐくとわりをを通を妙法蓮華経を妙を光
利益のひりそりをへ我母自法付属功徳を観
したまへをりをやを弱人ひあをんの者の名を文人
の神のりりへたまや文人の身のひり業百義の



花ようろうにてやとひまんどうやんむやにて！
人のようにひとりをとこ
ぜんこうかんこしける
まいこ
まんどうしやうこせどる
めのわるひとをかけはゆやうしがすぐこかこのや
門きたよ男乃仙女がわまくでうとあるら
ゆふかたまきうれ毎いめんこ女すとうれくめふ
ゆれこせんどわうこそわうがこうれこうこうこと
ぜんこまうたちのようこうこはゆやまんのれうこけ
つるうおがぜんたまひておうこうしのうかこせやそこ
天人ふこしあうこ屋門きうふうこうやふこまぶ
こうろうわうけこ天乃ゆうをたちこまだまやま
人ぜんこ家のうんたちこねぜんこうしあつ

人ぜんにまたまたまけこまこ女乃うこ公こうこたまよ
ぜこ天のひうげきてあうろうふこ人ふ物ろこれや
うこうふ乃ぜこ乃ぜ乃ろこうこ先でこうれ
とこうこうこひつこまのひつおこうこしやゆやまんだ
ふうこうこなやむこそ家ふおこうこそうふこうこの
物ろこいふここそもうこうこけこやこのこまひて袖
やたりこまこまこてだうまのふこ屋門こうれ邪
かりこのこりけどこいえんこんゆよのふやこあう
つ物邪こたまふこうこうこうり

十

橋鼻こ家藤こ
付り　邪侍八日ふ仏こ花こ人侍男邪のう
なこをふこきうこうこのやうこうこうう

まや夫人のゆもとゞこを乃あげ足をうつまひつゝ感
門ふひえのもとゞこうかたまうけわくまで考る能
つゞうりてこのかうぐせやゑ絵師こしにとゞれり
まあとわうへのうまをひうふかゆふるゆふ弟を
うゝの人稲ゝをれりひつゝ考びけえのうゝ先てさ。
かうふはゝれを考ゝまゝしゝゞつの身のとうやゆて
ゆの人陸やを夫人と公のうゝふうふさんゞしてふゝをとうゝ
絵人ゞ考とゝて絵ゝてまうりた先のとうう進ふ
ゝつりやあひきゝのまやを夫人のゝとれゞきう
きと乃てまひくゝろゝ考ひのふゝゞゝゝさけゝと人
ノハかんゞつり絵ゞゞれやめ身の神かゝて一河のさん
ゆみ住神の藤藤しやゝめりして。無る無人を

えんとなるふ過去人宇のの美とあるゝ一仏法華
ゆらえんとハあ絵ゝふあ絵ゝまゝりきゝて考考
世人ゞまはゝぐゝしやんゝ考を毎ゞゝる考のえん全
まはゝあゝあゝなまハあゝとゝふりとハ行へたまゝ
陸やを夫人も考ゝくゝまきめゝ考まゞゝりゝ丸
たゝりまま絵ゝまゝまゝ考ゝ考ゝ考

とゝなでゆしくて行りゝてこゝ
したくまひてゞうえん行りゞ一りよろのあるえ
ゝかゞゝあり湯やハろゝゝ乃あるゞありかゞゝ乃ゆる
しあるまゞさハまくろゞしけあるうさゝ一ゝうさゝ
ゝそ湯やまゝがゝ行ゝ乃ゝうさゝにけゝ湯とゝ
行ゝとせんゝあるゝそまうゝけまゞくきゝ
ゝれゝゝゞりひくゝよゝりくゝくゝまなゝあゝ
われまやまゝ乃ゝろゝけきゝあゞさを一ゝさ
ゝりくゝかゝ行ゝのゝゞ湯けゝてゝうゞゝとゝさいゝ
ゝれゝゝゞゝやゞゞけゝゝゝゞゞゝゝゝ湯やまゝの
あゝ湯ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝくゝたゝゝゝゞ
ゝゝ行ゝゝゝたまひてゝゝ絲くゝまゝゝ湯ゝゝ

まゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]たるしつ。西や夫人のかたとうの[illegible]
[illegible]ただつとうるぶげよ[illegible]
[illegible]

十

[illegible]の時。佛[illegible]
[illegible]
[illegible]

太子内方へ参じる

[illegible]

[illegible]

[illegible]